

経済動向調査レポート

令和5年 第2四半期

(調査対象：令和5年4月～6月)

福崎町商工会

令和5年8月

【目次】

I. 経済動向のポイント	2
II. 兵庫県の経済・雇用情勢	3
1. 概況（全体の状況）	3
2. 県内の主要業種の概況	7
3. 地域の概況	9
III. 景況調査	14
1. 景況調査について	14
2. 概況（全業種）	14
3. 業種ごとの集計	17
①製造業（有効調査数：187件）	17
②卸売業（有効調査数：48件）	18
③小売業（有効調査数：69件）	19
④サービス業（有効調査数：79件）	20
⑤建設業（有効調査数：106件）	21
⑥不動産業（有効調査数：29件）	22

○本レポート作成の目的

地域の経済・消費動向の現状を把握し、その情報を提供することで小規模事業者が経営方針を明確にし、経営分析および事業計画の策定に有効活用できるようにし、小規模事業者の売上や利益の増進に繋がるなど経営基盤の強化につなげることを目的とします。

○本レポートの作成方法

福崎町商工会の会員事業所に対して「調査票」の記入を依頼、回収したデータを基に他の調査や情報とも比較してレポートを作成します。

I. 経済動向のポイント

【1】 兵庫県の経済・雇用情勢

① 兵庫県の経済・雇用情勢は、持ち直している。

企業の業況判断は足もとで改善し、先行きは横ばいを見込んでいる。一部に悪化している指標はあるが、個人消費が回復し、設備投資の増加や雇用者所得の改善が見られる。

② 県内の主要業種は、飲食店と無店舗小売業は好調だが、その他業種の景況感は良くない。

外食機会の増加や好調な EC 販売が依然として継続しているが、その他の業種では物価や光熱水費の高騰、及び人材不足の影響もあり、景況感はさほど良くない。

③ 各県民局・県民センターを代表する業種については、景況感はさほど良くない。

中播磨県民センターでは、「飲食料品小売業」「金融業」について分析しており、物価高騰による客単価の減少やゼロゼロ融資の返済が進むことによる貸出残高の減少が懸念される。

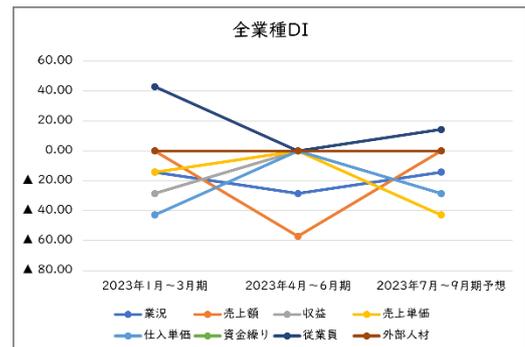
【2】 景況調査

① DI（ディフュージョン・インデックス）による分析。

DIとは景気の各項目事項について、「良い」と感じている企業の割合から、「悪い」と感じている企業の割合を引いた値を示しており、地域別・業種別の分析指標としている。

② 福崎町の2023年7月～9月期の全業種の景況感は低下傾向にあり、厳しい状況である。

まず、福崎町の2023年4～6月期は、マイナスおよび0ポイントの厳しい状況である。当期の業況DIは▲28.57となり、前期の▲14.29から14.28ポイント下降した。また、売上額・従業員に関するDIが低下と厳しい状況にある。一方で、収益・売上単価・仕入単価は上昇し、資金繰り、外部人材は横ばいではある。2023年7～9月期も全体的には低下の予想である。



③ 姫路地域の卸売・小売・サービス業の業況DIは低下しており、その他の業種は改善した。

但陽信用金庫の取引先全地域の6業種（製造業・卸売業・小売業・サービス業・建設業・不動産業）の調査では、2023年4月～6月期の姫路地域における業況DI実績では、卸売業・小売業・サービス業は低下しており、その他の業種は概ね改善した。また、7月～9月期の姫路地域ではサービス業のみ改善予想であり、その他の業種は低下を見込んでいる。

【3】 中小企業診断士からのコメント

新型コロナウイルスの5類移行に伴い、経済活動は正常化されつつあるが、物価と光熱水費の高騰、及び人材不足の影響が非常に大きい。このような状況下、8月31日には「令和6年度中小企業・小規模事業者・地域経済関係 概算要求等ポイント」を中小企業庁が公開した。内容は、概ね令和5年度の施策を踏襲しており、国としてこの苦境を引き続き支援する為の施策が、令和6年度も登場すると見込んでいる。その為、次年度も積極的な施策の利用をお願いしたい。

(令和5年9月9日 中小企業診断士 荒木慎吾氏)

II 兵庫県の経済・雇用情勢（「兵庫県の経済・雇用情勢」（令和5年8月10日）から引用）

1. 概況（全体の状況）

<p>本県の経済・雇用情勢は、持ち直している。</p> <p>景況等…企業の業況判断は、足もと改善し、先行きは横ばい圏内を見込んでいる。</p> <p>需 要…個人消費は、回復に向けた動きが広がっている。</p> <p>輸 出は、増勢が鈍化している。設備投資は、増加計画にある。</p> <p>生 産…生産は、一進一退の動きとなっている。</p> <p>雇 用…有効求人倍率は、前月を下回った。雇用者所得は、全体として改善の動きがみられる。</p> <p>金 融…倒産件数は、前年を上回った。</p>
--

主要指標の推移

①景況

現状（良い－悪い）構成比（%ポイント）

区 分	R4.9月	R4.12月	R5.3月	R5.6月	R5.9月(予測)
全産業	3	2	5	9	8
大企業	8	10	6	13	15
中堅企業	10	3	11	11	10
中小企業	▲2	▲3	2	5	1
うち製造業	▲1	▲3	▲3	▲1	3
うち非製造業	10	7	17	20	13

（出所）県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

②需要

項 目	R3年度	R4年度	R5.2月	R5.3月	R5.4月	R5.5月	R5.6月
商業販売額：億円	18,016	18,529	1,375	1,593	1,517	1,567	1,543
（前年度比増減率%）	(+0.3)	(+2.8)	(+2.9)	(+4.0)	(+3.7)	(+3.1)	(+2.5)
乗用車販売台数：台	141,627	144,966	14,454	19,021	11,868	11,461	13,587
（前年度比増減率%）	(▲7.3)	(+2.4)	(+23.2)	(+13.2)	(+21.7)	(+32.9)	(+31.2)
新設住宅着工数：戸	29,844	31,911	2,081	2,635	2,685	2,376	2,180
（前年度比増減率%）	(▲2.3)	(+6.9)	(▲10.3)	(+2.1)	(▲18.6)	(+12.7)	(▲15.7)
神戸港輸出額：億円	61,512	73,698	5,979	7,035	6,373	5,487	6,488
（前年度比増減率%）	(+23.6)	(+19.8)	(+16.5)	(+7.5)	(+14.1)	(+0.5)	(+1.4)

（出所）商業動態統計（経済産業省）、新車登録速報（日本自動車販売協会連合会兵庫県支部）、軽自動車新車届出状況（兵庫県軽自動車協会）、住宅着工統計（国土交通省）、神戸港貿易概況（神戸税関）（商業動態統計調査の前年度比増減率は全店ベース）

項 目	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度(実績)	R5年度(計画)
設備投資額（前年度比増減率：%）	▲1.2	2.4	▲13.4	8.3	3.8
（H27年度比：H27=100）	(113.9)	(116.6)	(101.0)	(109.3)	(113.5)

（出所）県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

③生産

項 目	R3 年度	R4 年度	R5.1 月	R5.2 月	R5.3 月	R5.4 月	R5.5 月
鉱工業生産指数：H27=100 (前月比増減率%)	93.9 (+0.9)	96.5 (+2.8)	102.5 (+7.7)	95.9 (▲6.4)	90.4 (▲5.7)	97.8 (+8.2)	90.6 (▲7.4)

(月次は季節調整値、年度は原指数。年度増減率は前年度比較) (出所) 兵庫県鉱工業指数(県統計課)

④雇用

項 目	R3 年度	R4 年度	R5.2 月	R5.3 月	R5.4 月	R5.5 月	R5.6 月
有効求人倍率(季節調整値)：倍	0.94	1.03	1.02	1.01	1.03	1.01	1.00
新規求人数(原数値)：人 (前年度比増減率%)	28,235 (+5.3)	29,795 (+5.5)	28,965 (+1.7)	29,674 (▲3.2)	28,822 (▲4.6)	26,216 (▲2.3)	29,269 (▲5.3)
雇用者所得計：円 (前年度比増減率%)	5,340 (▲1.1)	5,510 (+3.2)	4,639 (+0.7)	4,964 (+2.9)	4,990 (+5.5)	5,117 (+7.8)	= (=)

(出所) 一般職業紹介状況(厚生労働省兵庫労働局)、毎月勤労統計調査地方調査(県統計課)

⑤金融

項 目	R3 年度	R4 年度	R5.3 月	R5.4 月	R5.5 月	R5.6 月	R5.7 月
企業倒産件数：件 (前年度比増減率%)	329 (▲16.9)	368 (+11.9)	48 (+118.2)	34 (+21.4)	45 (+136.8)	49 (+81.5)	32 (+3.2)
企業倒産負債総額：億円 (前年度比増減率%)	294 (▲50.1)	649 (+120.5)	42 (+96.3)	11 (▲79.0)	640 (+401.1)	30 (▲27.8)	8 (▲45.1)

(出所) 兵庫県企業倒産状況(東京商工サーキ神戸支店)

(参考1)全国景気の現状についての内閣府のコメント

景気は、緩やかに回復している。

- ・個人消費は、持ち直している。
- ・設備投資は、持ち直している。
- ・輸出は、底堅い動きとなっている。
- ・生産は、持ち直しの兆しがみられる。
- ・企業収益は、総じてみれば緩やかに改善している。企業の業況判断は、持ち直している。
- ・雇用情勢は、このところ改善の動きがみられる。
- ・消費者物価は、上昇している。

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

(令和5年7月26日 内閣府「月例経済報告」)

(参考2)県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント

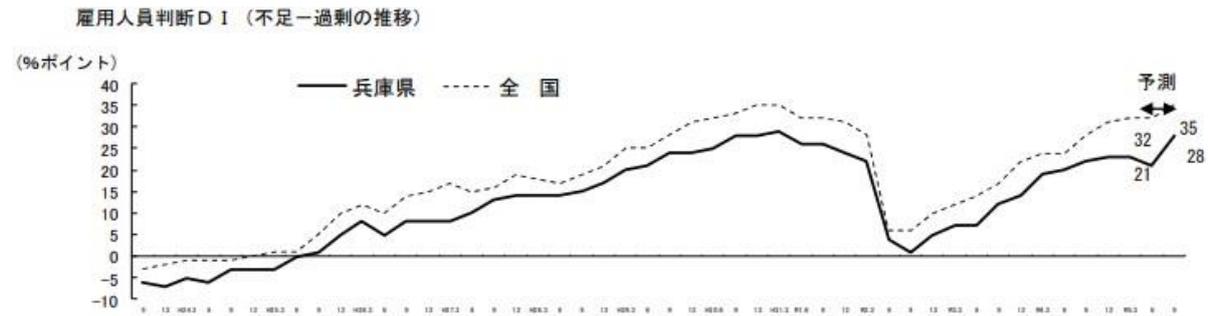
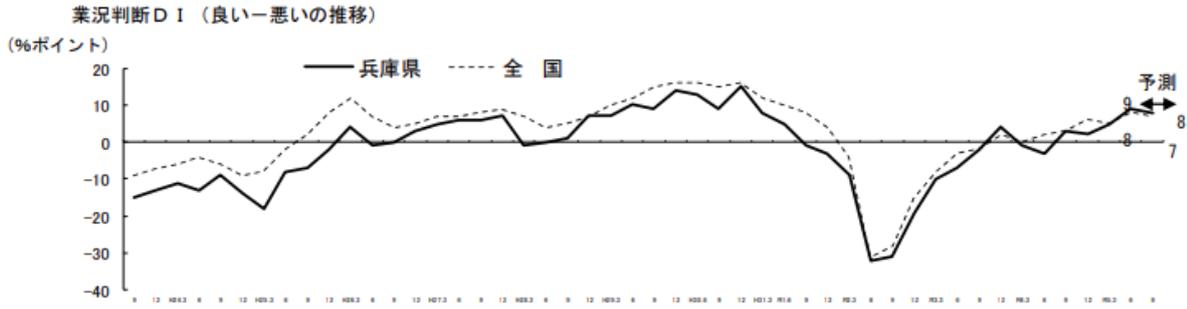
管内の景気は、持ち直している。

個人消費は、回復に向けた動きが広がっている。設備投資は、増加している。住宅投資は、持ち直している。公共投資は、弱めの動きとなっている。輸出は、増勢が鈍化している。

こうした中、生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、全体として緩やかに改善している。消費者物価(除く生鮮食品)は、前年を上回って推移している。

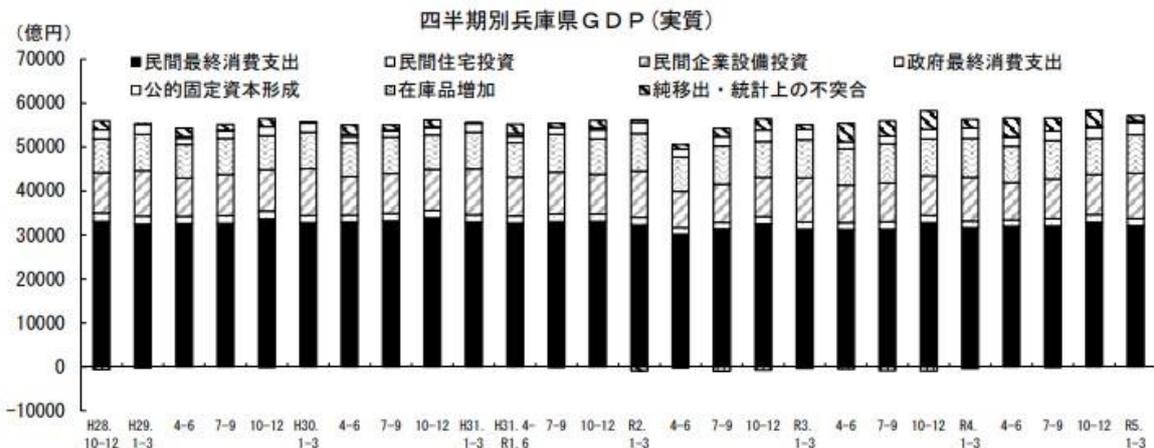
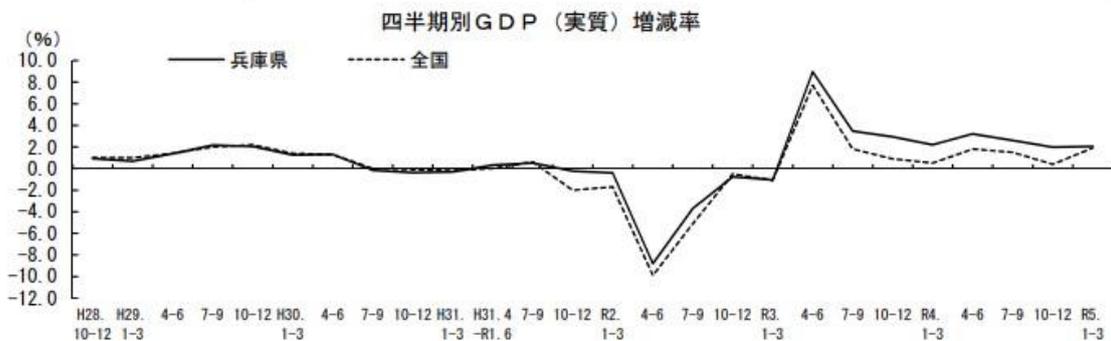
(令和5年7月20日 日本銀行神戸支店「管内金融経済概況」)

日本銀行神戸支店県内企業短期経済観測調査結果の推移



出所：令和5年6月全国・県内企業短期経済観測調査(日本銀行、同神戸支店)

GDP ⇒ 実質GDP (R5.1~3月期)は、地方政府等最終消費支出がプラスに転じ、民間最終消費支出、民間住宅投資、民間企業設備投資、公的固定資本形成、在庫変動が引き続きプラスで推移し、対前年同期比は2.1%とプラスとなった。



出所：四半期別GDP速報(内閣府)、四半期別県内GDP速報(県統計課)

兵庫県・四半期別GDP(実質)(億円、増減率%)

	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
GDP(実質)	221,885	222,083	214,240	223,331	228,811
前年度比	0.1	0.1	▲3.5	4.3	2.5

	H3.1-3	H3.4-6	R3.7-9	R3.10-12	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3
GDP(実質)	54,792	54,853	55,148	57,336	55,993	56,613	56,581	58,472	57,145
前年度比	▲1.1	9.0	3.5	2.9	2.2	3.2	2.6	2.0	2.1

兵庫県・四半期別GDP(名目)(億円、増減率%)

	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
GDP(名目)	222,008	223,117	217,359	220,602	221,057
前年度比	0.1	0.5	▲2.6	1.5	0.2

	R3.1-3	R3.4-6	R3.7-9	R3.10-12	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3
GDP(名目)	54,974	54,889	54,260	56,773	54,680	54,752	53,584	56,894	55,827
前年度比	▲0.8	6.2	0.9	▲0.3	▲0.5	▲0.2	▲1.2	0.2	2.1

注1) 今後公表される年度確報値とのあいだに若干の差異が生じる場合がある。

また、推計精度をより高めるため、各計数は過去にさかのぼって変更されることがある。

前年度比は原数値の増減を示す。

注2) 数値は、平成27年基準値となっている。

注3) 令和2年度までの年度数値は「県民経済計算」(県統計課) 令和3、4年度の年度数値は「四半期別GDP」(県統計課)

2. 県内の主要業種の概況

業種	概況
飲食店	<p>足元の景況感が良い。新型コロナが5類に移行した影響による外食機会の増加に伴い、人出が戻ってきており、売上も前年同時期を上回って推移している。3か月後の景況感も良いだろう。</p> <p>原材料価格はほぼ全て高騰しているが、現在は上がり幅が小さくなっており、高止まりしている状況。今後の動向については、様子見をしている。</p> <p>今年度の設備投資の計画は前年度並みで、引き続き店舗の維持管理等がメインとなっている。</p>
各種商売	<p>新型コロナが5類に移行し、外出機会が増加したこともあり、景況感はやや良くない。商品単価の上昇により、客単価は増加しているものの、客数は減少している。光熱水費の高騰や、今後も商品の値上げが続くことなどから、先行きもさほど良くないと考えている。物価上昇による消費者動向への影響も懸念している。</p>

	<p>今年度も計画に沿って設備投資を実施していく。店舗の改修等に取り組む予定。</p>
飲 食 料 品 小 売 業	<p>景況感はさほど良くない。来店客数が想定ほど回復していない。GW前半は雨天が続き、行楽地やイベントへの人出がもう一つであった。一方で3ヶ月後は良いと予測。コロナ前の規模で開催される花火大会等のイベントが多い。</p> <p>売上高、利益ともに、前期、前年同時期と比べて、増加。商品の値上がり、人流の回復によるもので、客単価、客数ともに増えている。オフィス街や繁華街の売上好調</p> <p>人手不足対策として、人型AIアシスタント、VR教育システム等を導入し、店舗オペレーションの軽減を図っている。また、電気料金値上げの影響が大きく、節電対策を強化する。</p>
電 気 機 械 器 具 製 造 業	<p>コロナ禍を経て市場環境は良くなりつつあるものの、景況感はさほど良くない。新型コロナの影響が落ち着き、需要が増えたこともあり、前年度の売上・利益は共に増加した。前年 同期比でも売上・利益共に増加の見込みである。</p> <p>雇用面では、多様な働き方の体制整備を続けている。中抜けができるようになり、より柔軟な働き方が可能となった。部署毎に分断されていたシステムを統合するなど、業務管理や業務の効率化にも取り組んでいる。</p>
無 小 店 売 舗 業	<p>新型コロナの影響が緩和され、リアル販売への回帰を懸念していたものの、売上は前年を上回って推移した。EC販売は業界全体でも引き続き好調で、今後も好調に推移するだろうと考えている。最近の消費動向としては、コスメ、アパレル商品など外出にまつわる商品が人気となっている。フレックス制を実施しており、コアタイムはあるものの、子育て中の職員もフレックス制をうまく活用し、業務に取り組んでいる。</p>
不 動 産 業	<p>景況感さほど良くない。3ヶ月後も今とあまり変わらないだろう。不動産の動く時期ではないこと、新規物件の供給数や立地地域が要因。</p> <p>売上高・利益ともに、前期・前年同時期と比べて増加。分譲マンション販売が、用地価格や建築コスト上昇はあるものの、立地の良い物件の引き渡し件数増と、低水準の住宅ローン金利などにより、比較的堅調に推移。</p> <p>価格転嫁の状況は、物件の立地地域で異なるものの、トータルでは、ほぼ転嫁できている。</p> <p>万博開催時期が迫る中、ゼネコンの人材不足は、工期遅れによるコスト高にも影響するため、不安材料。</p>
鉄 鋼 業	<p>景況感さほど良くない。3ヶ月後も今とあまり変わらないだろう。自動車関連では、半導体供給不足が年末での解消を想定するもの</p>

鉄 鋼 業	<p>の、インフレに伴う需要の減退などを受け、鉄鋼等は昨年度比微増と想定。また、IT関連では、一時的な需要停滞により、調整局面にあるデータセンター向けディスク材などのアルミ板等は下期以降の本格的な回復を見込む。</p> <p>2022年10～3月の売上高及び利益は、4～9月と比較し、いずれも減少。主原料価格の下落に伴う販売価格の低下、固定費などのコストアップが要因。</p> <p>雇用については、製造現場への配属が想定される高校生の採用に例年以上に苦戦し、採用計画が未達になったものの、中途採用により、現場に大きな影響は生じていない。</p>
-------	---

令和5年6月 兵庫県産業労働部調査

業 種	概 況
食 品 卸 売 小 売 業	<p>新型コロナの影響が緩和され、外食需要が増えたこともあり、景況感の良い。第1四半期(4-6月)の売上はコロナ禍前の水準まで戻っており、第2四半期(7-9月)の売上も伸びるだろうと考えている。コロナ禍で旅行等に行けなかった反動もあり、観光業が好調で、メイン顧客のホテル業界でも宴会需要が戻ってきている。</p> <p>食品価格は全て高騰しており、既に20%程度上昇している。値上げがある商品の品目は減少してきており、価格転嫁も全て実施できている。</p> <p>一方で小売業の景況感はさほど良くない。新型コロナが5類に移行したことで、内食需要が減少しており、来店客数も減少傾向である。小売業の価格転嫁は他社の動向を見ながら実施しているため、値上げ交渉が難しい。</p>

令和5年7月 兵庫県産業労働部調査

3. 地域の概況

地 域	業 種	概 況
神 戸	そ の 他 卸 売 業	<p>コロナ禍で出展を取りやめていた海外の展示会への参加も再開し、国内での展示会も活発化してきている。</p> <p>原材料価格が4～8割高騰しているが、商品価格に一部転嫁をしても商品が売れており、収益も上がっている。この好況感はしばらく続くのではと予想している。</p> <p>国産原材料の供給量が落ちてきているので、仕入れ先の新規開拓をするために、相対取引だけではなく、入札会への参加も考えている。</p>
	化 学	<p>主な取引先である自動車関連部品を生産する中小企業では、コロナ禍中に在庫を増やしていたため新規の生産が低調であり、当社の年間販売数量が減少している。売上自体は増加したが、それは値上げによる結果であり、増益には至っていない。その傾向はまだしば</p>

神戸 (続き)	化学	<p>らく続くと見られ、現状、先行きともに明るいとは言えない。</p> <p>石油化学燃料を原料に扱っているので、持続可能な社会のため、危機意識をもって環境問題に取り組んでいる。二酸化炭素を生成しないような仕組みづくりや、石油由来でない材料の開発にも積極的に予算を投じている。</p>
阪神南	紙加工品業	<p>昨年末頃から、コロナ禍の終了を見越した受注が増えてきており、各イベントも再開されはじめ、売上はコロナ禍前、もしくはそれ以上となり景況感が良い。好調を堅持しているなか、直近の賃金改定ではベースアップと賞与アップを実施できた。</p> <p>一方、雇用人員は不足しており、継続して求人募集をしているが応募はほとんどない状況。また、以前からAI・IoTの導入を検討しているが、実現時期は未定のままである。</p>
	情報サービス業	<p>IoTの普及により、売上高、利益ともに増加しており、景況感が良い。制御・組込系ソフトウェア開発は今後も需要が見込まれるため、AIやデータサイエンスの技術習得など社内技術力向上を実施しているが、ソフトウェア開発部門の人員は不足している。</p> <p>半導体不足の影響は続いており、ソフト開発の受注遅れが発生している。社内では勤怠管理システム・給与管理システムの導入を決定したり、在宅勤務を導入したりと働き方改革に努めている。</p>
阪神北	金属製品業	<p>半導体不足等の影響が緩和されつつあり、取引先の自動車生産が、前年度より増加していることに伴い、受注も増加している。今後にも期待している。</p> <p>大卒の技術者を採用したいが、なかなか採用できない状況である。技術者も育成する必要があるが、将来的な事業に影響を及ぼさないか、危機感を抱いている。</p>
	各種商品小売業	<p>景況感はさほど良くない状況である。ガソリン等は政府の卸売価格抑制対策で小売価格の急騰を抑制しているが、他社との価格競争もあり価格転嫁は100%に近づけることはまだ難しい状況である。</p> <p>またLPガスは価格抑制対策がなされるものの、ガソリンよりも価格転嫁は難しく収益に影響を及ぼしてきている。新規事業にも取り組み、収益の機会確保に努めている。</p>
東播磨	食料品製造業	<p>原材料価格高騰の影響を受けて、今月から値上げを実施しており、景況感はさほど良くない。</p> <p>原材料価格の高騰に対しては、価格転嫁や代替材料</p>

東播磨 (続き)	食料品製造業	<p>の使用で対応しているが、光熱費高騰の影響が大きく、マイナスの影響となっている。</p> <p>工場製造部門と事務職で人手不足が生じており、求人募集を行っているが、応募が少なく、人材確保に苦慮している。</p>
	食料品製造業	<p>価格転嫁により売上高は増加しているが、円安や原材料価格、光熱費高騰の影響を吸収しきれず、また、コロナ禍の巣ごもり需要が終わり、物量自体が減少傾向にあるため、景況感はさほど良くない。</p> <p>現在の雇用人員の状況については、一部の部門で応募が少なく、若干不足している。</p> <p>男性の育児休暇取得を推進しており、対象者には推奨説明をするなど、働き方改革の推進に向けた取組を行っている。</p>
北播磨	宿泊業	<p>景況感はさほど良くない。</p> <p>コロナ禍から回復しつつある状況ではあるが、コロナ禍以前の稼働率の6～7割程度である。今後、収益性の高い宴会部門の集客が回復していく見込みであるが、部門スタッフの採用がはかどらず、人手不足が懸念される。</p> <p>また食材費や光熱費等の高騰、脱プラ推進など費用がかかる一方で、宿泊料等への転嫁は難しく苦戦している。</p>
	老人福祉・介護事業	<p>景況感はさほど良くない。</p> <p>新型コロナの5類移行後においても、施設では継続して予防を徹底しているため、コロナ関連の補助等が打ち切られるとかなり厳しい。</p> <p>AIを活用した職場環境の改善や外国人労働者の採用、働く従事者の待遇（賃金）改善など実施しているが人材不足は慢性化しておりPR方法を含め効果的な人材確保対策を模索している。</p>
中播磨	飲食料品業 小売	<p>景況感としては良くない。物価高の影響で商品価格が上がっており、一人あたりの買い上げ点数が減っていることに加え、他店との競合により客数が伸びていないことから、利益は昨年度より減少している。</p> <p>設備投資は、昨年度は一部店舗で改装を行ったが、今年度は現時点で未定であり、減少する見込み。</p> <p>雇用面については、正社員、アルバイトともに募集を行っているが、応募が少なく人手不足が常態化している。新卒採用についても、計画の半分程度の採用に留まっており、定年退職者の補充が困難になっている。</p>
	金融業	<p>管内企業のD Iは製造業、非製造業ともに改善傾向であるが、物価高や人手不足への懸念などから、積極的な投資を行う企業は限定されており、設備資金の貸</p>

中播磨 (続き)	金融業	<p>出は増えていない。一方、運転資金については、ゼロゼロ融資の返済が進むことなどから、今後貸出残高の減少が予想される。このような状況から、景況感としてはさほど良くないと捉えている。</p> <p>人員については、製造業、建設業、運輸業などを中心に、多くの中小企業で慢性的な不足が続いている。当行については、現時点では計画通り採用はできているものの、今後の定年退職者の増加や働き方改革が進むことなどを踏まえると、充足しているとは考えていない。</p>
西播磨	宿泊業	<p>景況感はさほど良くない状況である。全国旅行支援が終了した影響が大きく、3か月後の見通しについてもさほど良くないと予測している。</p> <p>一部客室についてリニューアル工事を行っているが、資材調達の遅れで工事完了が予定より1か月ほど遅い8月末頃になると見込んでいる。一時的に受入れ客数及び売上の減となるが、客室のグレードアップ等による施設の魅力向上、より上質なサービスの提供を図ることとしている。</p>
	総合工事業	<p>景況感は良くも悪くもない。3か月後の見通しについても大きな変化はないと予測している。</p> <p>リフォーム契約については順調に推移しているが、新築契約については計画に対して伸び悩んでいる。高所得層からの受注は順調だが、資材高騰等による建築経費の増加のため、全体的に住宅新築に対する消費マインドが冷え込んでいるのではないかと分析している。</p>
但馬	旅客運送業	<p>景況感はさほど良くない。バス稼働率もコロナ禍前より低く、利用者低迷と運転士不足の影響により一部路線で減便や運休している。現在の求人募集は自社求人サイトやハローワークから一定の応募がある。特に深刻な運転士確保のためにバス運転体験会を開催し企業認知度向上を図っている。地域外からの参加者も一定数いるため、就職後を見据えた移住相談にも対応している。</p>
	食料品製造業	<p>景況感はさほど良くない。今年7～9月は前四半期比で売上高23%の減少。利益も10%減少を見込む。昨年同期比でも売上高、利益ともに減少を見込む。不漁に伴い水産加工ラインに流れる原材料の価格高騰が主な要因となる。販売価格の据え置きは厳しく値上げを実施。営業努力を続けるが、商品を高付加価値化し購買意欲のある消費者層獲得にも力を入れたい。雇用面では、人手不足が主課題である。高齢者雇用を推進し、後継者育成に力を注いでいる。</p>
丹波	卸売・小売業	<p>景況感は昨年同期比と比較して良い状況である。今</p>

丹波 (続き)	卸 売 ・ 小 売 業	後も良い状況が続くと予想している。しかしながら電気代や包装資材、運送費の高騰が依然続いていることや、従業員の賃金引き上げを実施しているため、あまり利益は伸びてはいない。また長期的な経営を視野に入れ、新商品の開発や販路拡大、新事業に向けた準備など多角的な経営をすすめている。
	生 産 用 機 械 器 具 製 造 業	景況感は昨年同期と比較して非常に悪い。今後の見通しについても不透明な状況である。国内外の販売先業界の設備投資の減少により売上が大きく減少した。海外実習生を昨年比で大きく減らしたが、それでも人員が余剰の状態であり、厳しい経営状況が続いている。
淡路	金 融 業	観光客の回復に伴い、貸別荘事業が好調であるほか、建築業の受注も増加傾向にあるが、コロナ対応借入金が増加していることなどから、融資件数・額ともに、昨年同期と比較し5%程度減少しており、景況感はさほどよくない。 雇用については、近年、採用5年以内での退職が半数近くとなっており、若手社員の定着が課題となっている。また管内企業の状況としては、若年層の労働人口の減少や、技術・専門職の不足に加え、島外企業が高時給でのパート社員募集を行っており、地元企業の人材が流出している。
	食 料 品 製 造 業	新型コロナの5類移行により、観光客は回復してきており、受注・需要の状況については、昨年同期と比べると少しずつ増加してきているが、コロナ禍前との客層変化による消費動向の影響や、輸入品の運送費、原材料価格の高騰による影響があり、景況感はさほど良くない。 業務改善・構造改善の取組については時間短縮による集中的な製造や、できるだけ1度に多くの発送を行うなど輸送コスト削減などに取り組んでいる。

令和5年7月 県民局・県民センター調査

Ⅲ. 景況調査

Ⅰ. 景況調査について

○『DI (ディフュージョン・インデックス)』による分析

DIとは、景気の各項目事項について、「良い」と感じている企業の割合から、「悪い」と感じている企業の割合を引いた値を示します。右の表の場合、「良い」20%－「悪い」30%＝－10%となり、DI値は－10ポイントと示すことができます。

業況	件数	構成比
良い	10件	20%
不変	25件	50%
悪い	15件	30%
合計	50件	100%

○引用する調査書と有効回答数について

本レポートの作成にあたり、但陽信用金庫が四半期毎に実施する「景気動向調査」の調査結果を引用しています。

(対象期間内における有効回答数)

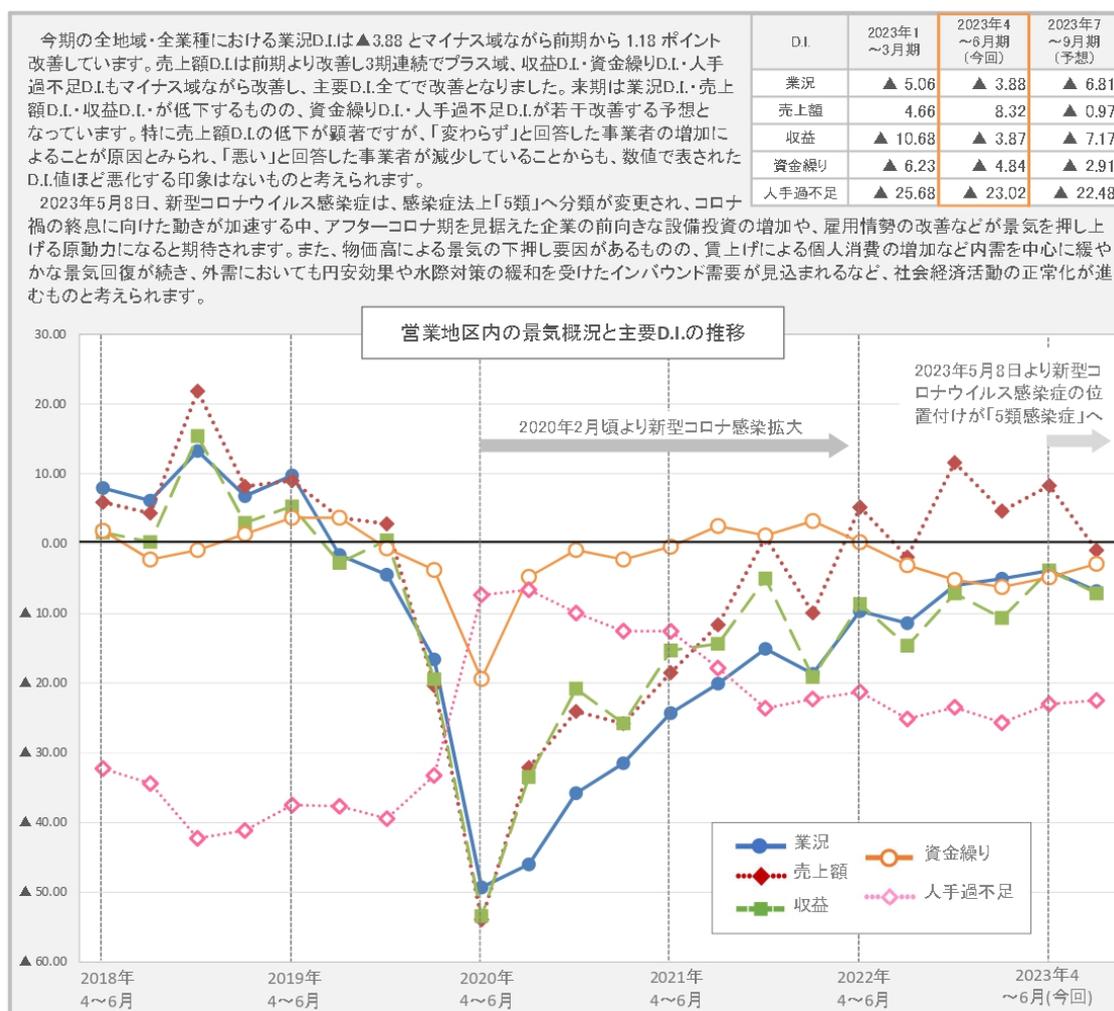
	エリア	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
景気動向調査 (但陽信用金庫)	取引先全地域	518件					
中小企業景況調査 (福崎町商工会)	-	1件	0件	2件	3件	1件	0件

○業種の分類について

本レポートでは、飲食・宿泊業は「サービス業」とあわせて集計しています。

2. 概況（全業種総合）

《但陽信用金庫》



《福崎町商工会》

(全業種)	2023年 1月～3月期	2023年 4月～6月期	2023年 7月～9月期予想
業況	▲ 14.29	▲28.57	▲ 14.29
売上額	0.00	▲57.14	0.00
収益	▲ 28.57	0.00	▲ 28.57
売上単価	▲14.29	0.00	▲42.86
仕入単価	▲42.86	0.00	▲ 28.57
資金繰り	0.00	0.00	0.00
従業員	42.86	0.00	14.29
外部人材	0.00	0.00	0.00

[2023年4～6月期]：マイナスおよび0ポイントの厳しい状況

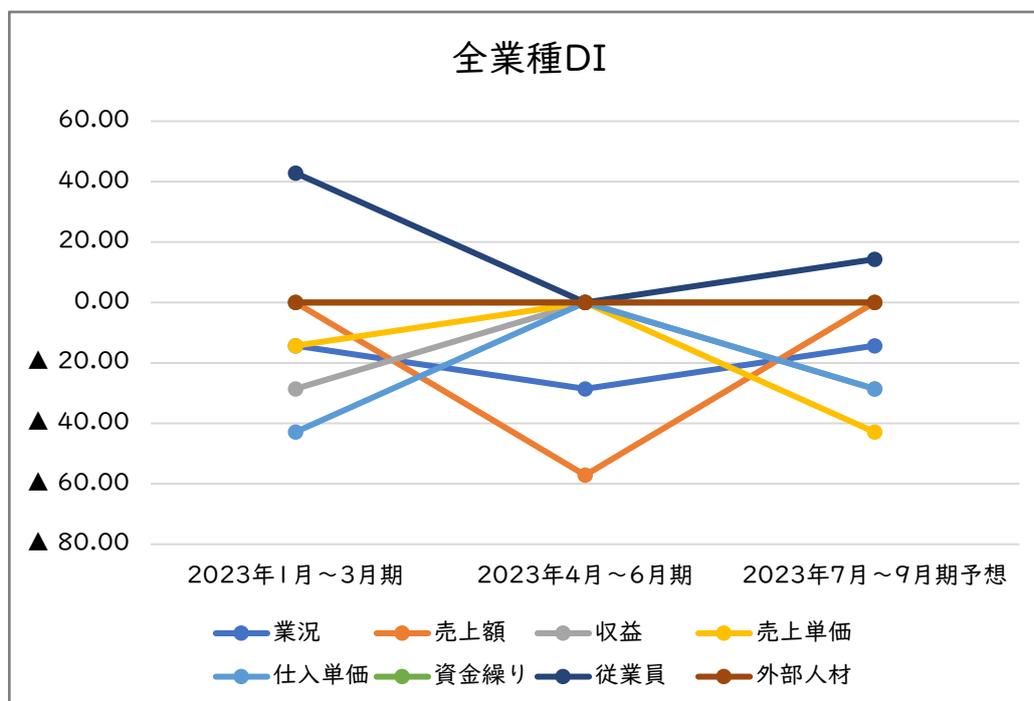
当期の業況DIは▲28.57となり、前期の▲14.29から14.28ポイント下降しました。

また、売上額・従業員に関するDIが低下と厳しい状況、一方で収益・売上単価・仕入単価は上昇し、資金繰り、外部人材は横ばいではあるものの、マイナスおよび0ポイントの厳しい状況です。

[2023年7～9月期]：低下の予想

来期の予想業況DIは▲14.29で上昇予想です。

売上額・従業員に関するDIが上昇し、収益・売上単価・仕入単価は低下、資金繰り・従業員・外部人材に関するDIが横ばいではあるものの厳しい予想です。



3. 業種ごとの集計《但陽信用金庫》

(1) 製造業

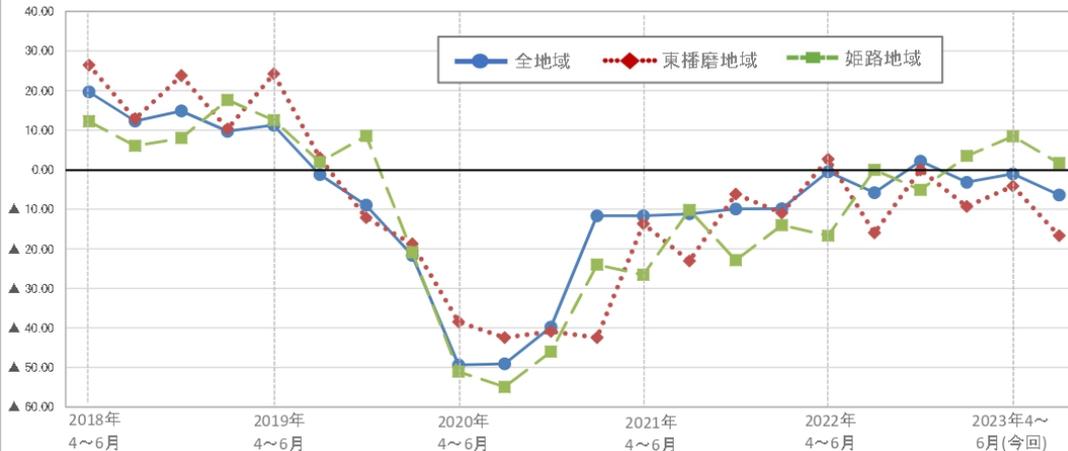
■ 製造業

回答企業 187 社 回答率 99.5%



地域別業況D.I. >> 全地域の業況D.I.は▲1.07 と、前期から 2.12 ポイント改善しています。東播磨地域は▲4.17 と 5.16 ポイント改善、姫路地域は 8.47 と 5.02 ポイント改善しています。来期は今期と対称的に全地域および全ての地域別で低下する予想となっています。

地域	2023年 1~3月期	2023年 4~6月期 (今回)	2023年 7~9月期 (予想)
全地域	▲ 3.19	▲ 1.07	▲ 6.42
東播磨地域	▲ 9.33	▲ 4.17	▲ 16.67
姫路地域	3.45	8.47	1.69

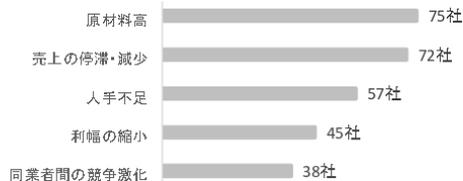


その他主要D.I. >> 今期は、売上額D.I.・収益D.I.・人手過不足D.I.が前期から改善し、資金繰りD.I.が若干低下しています。来期は売上額D.I.・収益D.I.が低下、資金繰りD.I.・人手過不足D.I.がやや改善する予想となっています。

D.I.	2023年 1~3月期	2023年 4~6月期 (今回)	2023年 7~9月期 (予想)
売上額	2.88	10.70	▲ 3.78
収益	▲ 11.70	▲ 4.28	▲ 8.58
資金繰り	▲ 2.88	▲ 2.69	0.00
人手過不足	▲ 28.80	▲ 21.93	▲ 20.97

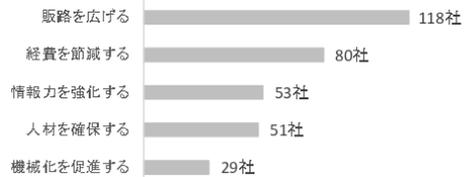


経営上の問題点(複数回答 上位5項目)



設備投資の実施と予定 ・ 改装工事(衣料製造)

当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)



【その他の重点経営施策】・既存借入金の正常化(建築金物・看板製造業)

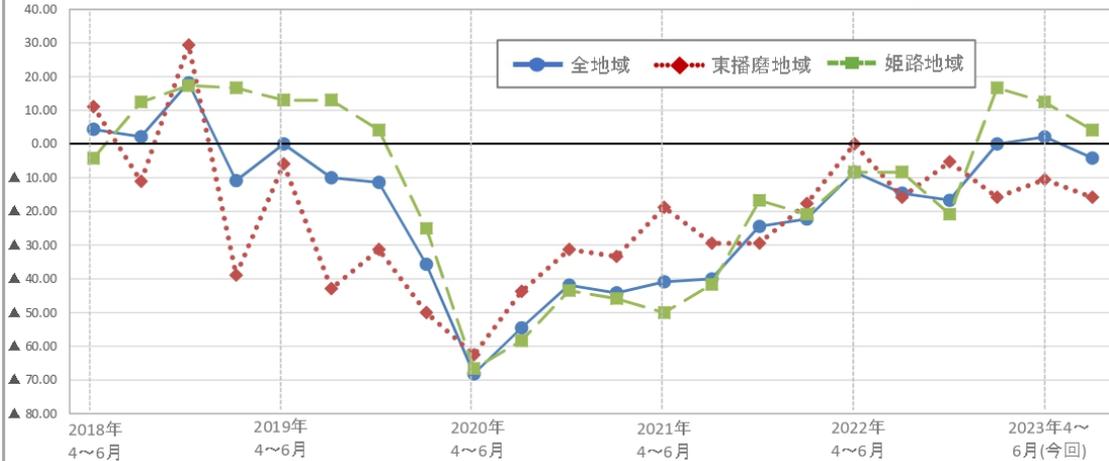
(2) 卸売業

卸売業 回答企業 48社 回答率 100.0%



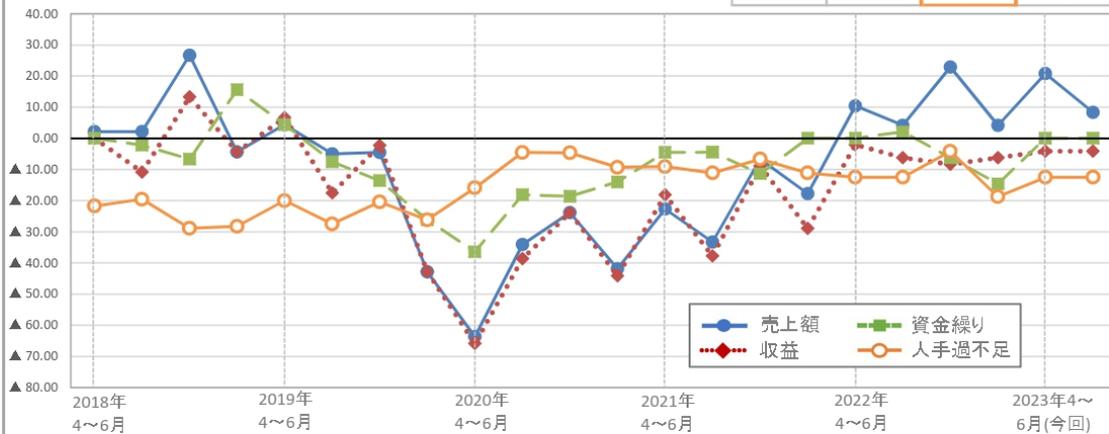
地域別業況D.I. >> 全地域の業況D.I.は前期から2.08ポイント改善しています。東播磨地域は5.26ポイント改善の▲10.53、姫路地域は12.50と4.17ポイント低下しています。来期は全地域・地域別で低下する予想となっています。

地域	2023年 1月～3月期	2023年 4月～6月期 (今回)	2023年 7月～9月期 (予想)
全地域	0.00	2.08	▲4.17
東播磨地域	▲15.79	▲10.53	▲15.79
姫路地域	16.67	12.50	4.17



その他主要D.I. >> 今期は売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.・人手過不足D.I.のすべてが、前期から改善しています。来期は売上額D.I.が低下、収益D.I.・資金繰りD.I.・人手過不足D.I.は横ばいの予想となっています。

D.I.	2023年 1月～3月期	2023年 4月～6月期 (今回)	2023年 7月～9月期 (予想)
売上額	4.17	20.83	8.33
収益	▲6.25	▲4.17	▲4.17
資金繰り	▲14.58	0.00	0.00
人手過不足	▲18.75	▲12.50	▲12.50



経営上の問題点(複数回答 上位5項目)

売上の停滞・減少	20社
同業者間の競争激化	20社
利幅の縮小	15社
人手不足	12社
人件費の増加	8社

設備投資の実施と予定 ・ソフトウェア(青果販売)

当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)

販路を広げる	36社
経費を節減する	17社
人材を確保する	13社
情報力を強化する	10社
品揃えを充実する	8社

【その他の重点経営施策】・工場増築(鋼材加工・販売)

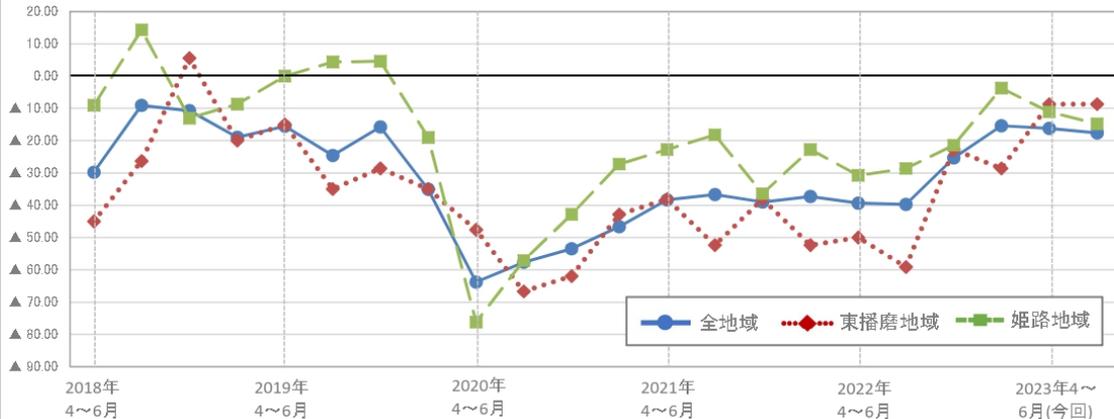
(3) 小売業

■ 小売業 回答企業 69社 回答率 100.0%



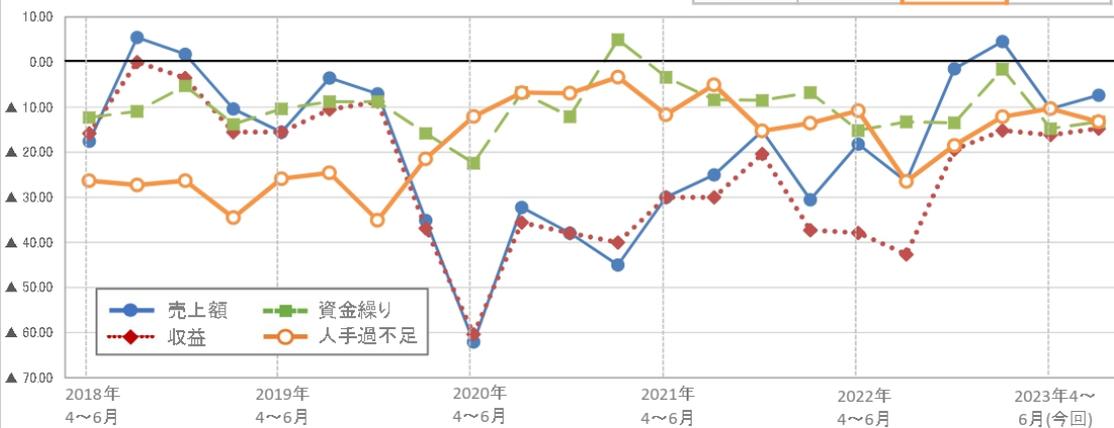
地域別業況D.I. >> 全地域の業況D.I.は▲16.18と、前期から0.80ポイント低下しています。東播磨地域は▲8.70と19.87ポイント改善、姫路地域は▲11.11と7.41ポイント低下しています。来期は全地域・姫路地域が低下、東播磨は横ばいの予想となっています。

地域	2023年 1月～3月期	2023年 4月～6月期 (今回)	2023年 7月～9月期 (予想)
全地域	▲ 15.38	▲ 16.18	▲ 17.65
東播磨地域	▲ 28.57	▲ 8.70	▲ 8.70
姫路地域	▲ 3.70	▲ 11.11	▲ 14.81



その他主要D.I. >> 今期は売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.が低下、人手過不足D.I.は改善しています。来期は売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.がやや改善、人手過不足D.I.は低下する予想となっています。

D.I.	2023年 1月～3月期	2023年 4月～6月期 (今回)	2023年 7月～9月期 (予想)
売上額	4.55	▲ 10.29	▲ 7.35
収益	▲ 15.15	▲ 16.18	▲ 14.71
資金繰り	▲ 1.54	▲ 14.71	▲ 13.24
人手過不足	▲ 12.12	▲ 10.29	▲ 13.24



経営上の問題点(複数回答 上位5項目)

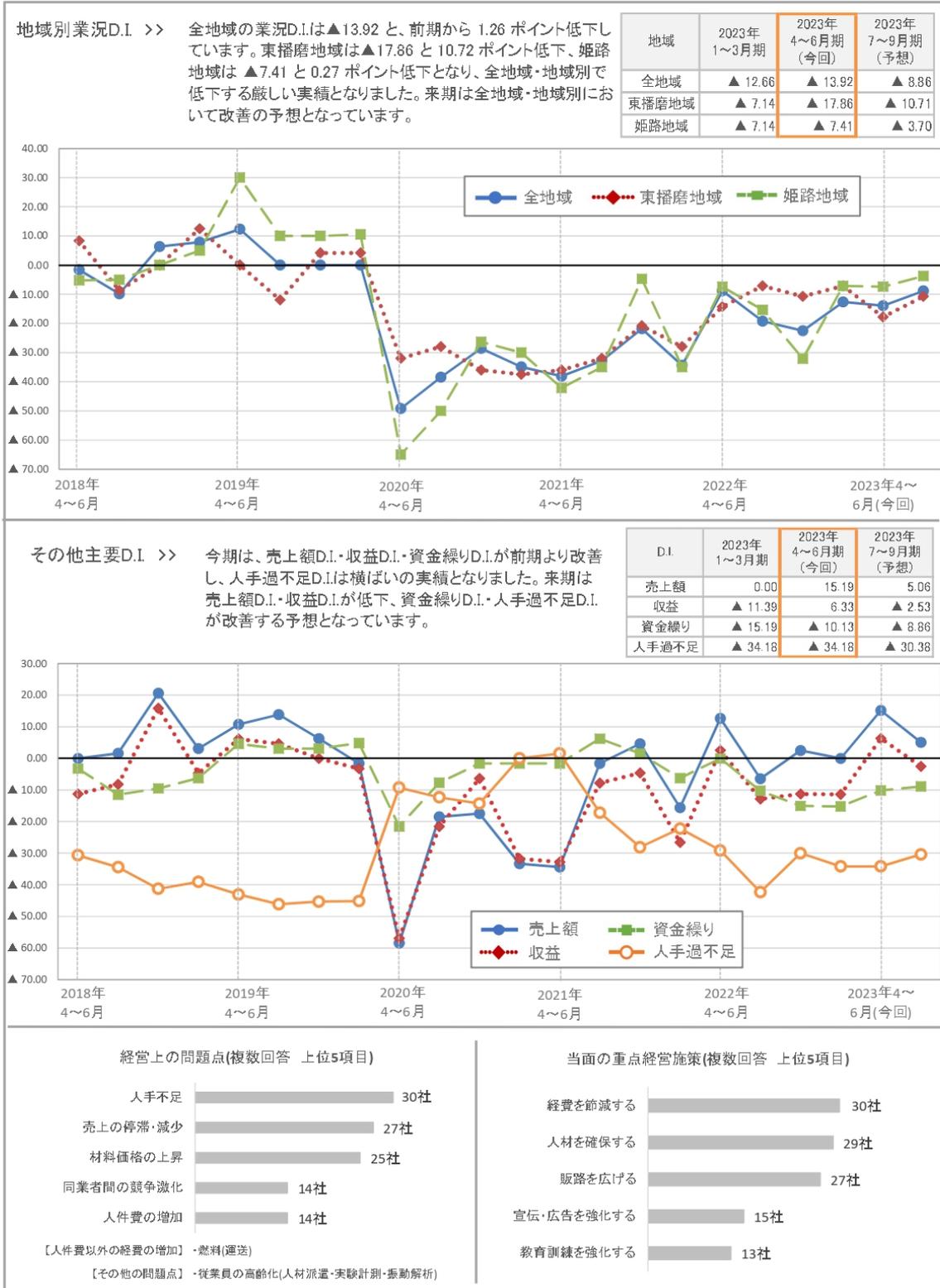
売上の停滞・減少	39社
同業者間の競争激化	21社
利幅の縮小	18社
人手不足	16社
仕入先からの値上げ要請	16社
【その他の問題点】・光熱費等(自動車整備)	
設備投資の実施と予定 ・厨房機器更新(弁当製造販売)	

当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)

経費を節減する	38社
品揃えの改善	16社
宣伝・広告を強化する	16社
人材を確保する	12社
売れ筋商品を取扱う	10社
【その他の重点経営施策】・新規顧客の獲得(建設建機・リース)	

(4) サービス業

■ サービス業 回答企業 79社 回答率 98.8%



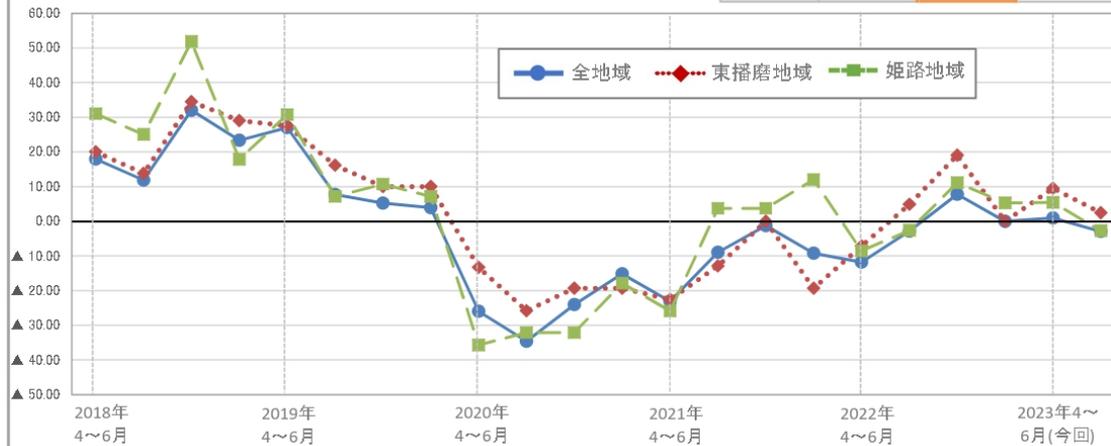
(5) 建設業

■ 建設業 回答企業 106社 回答率 100.0%



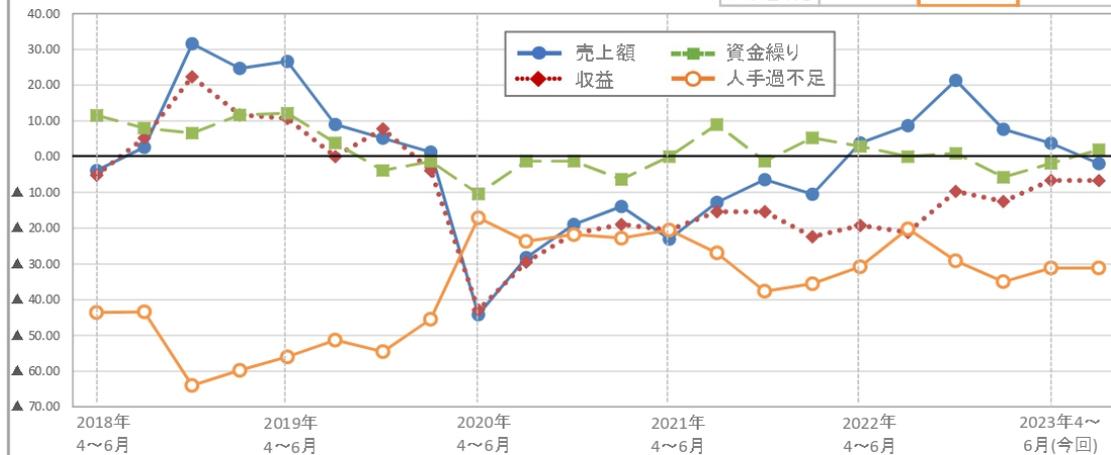
地域別業況D.I. >> 全地域の業況D.I.は前期から0.96ポイント改善しています。東播磨地域は9.52ポイント改善、姫路地域は5.41と0.15ポイント改善し、全地域・地域別で改善しました。来期は今期と対称的に、全地域・地域別で低下する予想となっています。

地域	2023年 1月～3月期	2023年 4月～6月期 (今回)	2023年 7月～9月期 (予想)
全地域	0.00	0.96	▲ 2.91
東播磨地域	0.00	9.52	2.44
姫路地域	5.26	5.41	▲ 2.70



その他主要D.I. >> 今期は売上額D.I.が低下しましたが、収益D.I.・資金繰りD.I.・人手過不足D.I.は前期から改善しています。来期は売上額D.I.・収益D.I.が低下、資金繰りD.I.は改善し、人手過不足D.I.は横ばいの予想となっています。

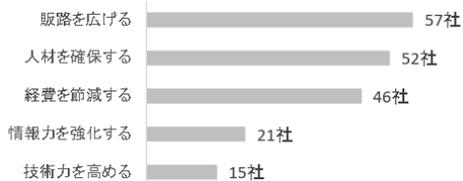
D.I.	2023年 1月～3月期	2023年 4月～6月期 (今回)	2023年 7月～9月期 (予想)
売上額	7.69	3.77	▲ 1.90
収益	▲ 12.50	▲ 6.60	▲ 6.67
資金繰り	▲ 5.77	▲ 1.89	1.90
人手過不足	▲ 34.95	▲ 31.13	▲ 31.13



経営上の問題点(複数回答 上位5項目)



当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)



【その他の重点経営施策】・業務効率化(住宅リフォーム)

(6) 不動産業

■ 不動産業 回答企業 29 社 回答率 96.7 %

